

※学年だよりで使用されている写真や作品の SNS 等への掲載はご遠慮ください。

## 〇〇を制するものは・・・

いよいよ明日は『評定通知』が行われます。皆さんが希望する進路に向けて努力してきた結果が数字となって現れる日です。「評定が上がってうれしい!」「評定が下がって悲しい…」といった感情を持つのは当然のことです。しかし、この結果に一喜一憂するだけで終わってはいけません。まずは“自分の評定”と真剣に向き合い、

「受験方法をどうするのか」「併願校をどこにするのか」「都立推薦にチャレンジするのか」など、今後の具体的な戦略をご家庭でしっかりと話し合ってから、三者面談を迎えてください。



## 提出物を制するものは受験を制す

この言葉を初めて聞く人もいるかもしれません。「夏を制するものは受験を制す」「過去問を制するものは受験を制す」といった言葉は有名ですが、なぜ『提出物』が受験の成功につながるのでしょうか。提出物とは、授業中の課題やワーク、各種の配布物（進路関係の手紙など）を指します。これらを完璧にこなすことは、受験生として必須の習慣であり、同時に最高の受験対策となります。逆に、この時期に基本的な提出物の習慣が身についていない人は、周囲より大きく出遅れることになります。

## 「計画性」と「実行力」を養う

受験勉強は、長期にわたる戦いです。膨大な量の勉強を、計画的に進め、期限までに質の高い状態に仕上げる力が必要になります。提出物には必ず締め切りがあります。この締め切りを守り、完璧に仕上げるという日々の訓練は、そのまま受験勉強全体を自己管理する「実行力」と「計画性」を養います。また、提出物を忘れての“再登校”、ワークの“答えの丸写し”、放課後の“居残り”などは、受験生として無駄な時間を費やすことになります。提出物をただの義務として終わらせるのではなく、自己管理能力を鍛える練習、志望校に近づくための重要な活動と捉え直してみましょう。

最近、学年の中で期限を守れていない人が見受けられます。更に、期限を過ぎた後の再提出の指示を無視したり、締め切り当日に「紙がありません」と申告したりと、受験生としての意識が低いと思われる行動が見られます。これから始まる進路関係の手続きにおいて、締め切りを過ぎることは、受験資格を失うこと、すなわち受験できないことを意味します。

自分自身の進路にしっかりと自覚と責任を持って、日々の提出物の期限を絶対に守るようにしてください。学年全員で、受験を制する一歩を力強く踏み出しましょう!

# 面接練習を終えて

昼休みと放課後に行ってきた学年の先生の『面接練習』が終了しました。来週から始まる校長先生・副校長先生との面接練習に向けて、もう一度大事なポイントを振り返りましょう。



## 1 挨拶・礼・動作を分ける

面接官に与える第一印象は、入室時の動作で決まります。「ながら動作」を避けるのが鉄則です。挨拶、礼、動作（歩くこと）を一つずつ区切って行うことで、落ち着きと丁寧さが伝わります。

## 2 本当に行きたいことを伝える志望理由

志望理由を聞かれた際、「家から近いから」「ちょうど良いレベルだから」「生徒の雰囲気良かったから」といった理由だけでは不十分です。学校の特色と自分を結びつける『校風』『特色』『部活動』『進路実績』などを事前に調べて、「その学校でしか学べないこと」「自分で何をしたいか」を明確に結びつけましょう。また、「〇〇高校の〇〇の授業に魅力を感じ、将来〇〇という職業に就くために、その授業を通して専門知識を深めたいです」のように、学校に行った実績、具体的な内容や将来の目標を含めて伝えると強い熱意が伝わります。

## 3 最近のニュースは「クマ🐻」だけでない

時事問題は、社会への関心度や自分の考えを持つ力を見るために聞かれることがあります。私が担当した生徒にニュースについて質問したところ、ほとんどの生徒が「クマ」に関するニュースを取り上げました。もちろん、クマのニュースが悪い訳ではないですが、国際情勢、環境問題、科学技術など、広い視点でニュースをチェックすることが大切です。また、内容を伝えるだけでなく、「自分はどう考えたか」「なぜ興味を持ったのか」を一緒に説明できると深みのある回答になります。さらに、自分の趣味や特技、将来の夢と絡めることも効果的です。

## 4 困った質問は素直に「わかりません」

面接中に想定外の質問や、答えに詰まる質問をされることがあります。焦って嘘をついたり、的外れな回答をしたりするよりも、正直に伝える方が印象は良くなります。「大変申し訳ありません。〇〇については、まだ詳しく把握できておりません」と素直に答えましょう。ただ、「わかりません」で終わらせずに「これからもっと調べて、知識を深めたいと思います」など、前向きな言葉を添えると誠実さが伝わります。

## 5 緊張したときの目線と手の位置

緊張すると、目線が泳いだり、手が動いたりしがちです。面接官が複数いる場合、話を聞いている間は質問してくれた面接官、自分が話すときは面接官全員に、均等に視線を配るように意識しましょう。相手の目元やネクタイの結び目あたりを見るのが効果的です。椅子に座っている際は、背筋を伸ばし、手は両膝の上で軽く握るか、重ねて置くのが基本です。面接中に手遊びをしたり、顔を触ったり、髪をいじったりする動作は厳禁です。

高校側も100点の回答は求めています。落ち着いた態度で熱い熱意を伝えることが面接突破の鍵となります。これらのアドバイスを参考に、本番まで頑張ってください。